

本業で培った熟練の技と設備を応用して作る「華倭里行燈」

株式会社カキモト 奈良県生駒郡三郷町

1907年（明治40年）に奈良県三郷町で鍛冶屋として創業し、現在は産業機械部品等の金属加工を手掛ける『株式会社カキモト』（代表取締役社長・垣本昌孝氏）。2008年秋のリーマンショックで売り上げが10分の1に落ち込む危機に直面した同社は、それまで培った技術や設備を応用して“金属工芸品製作”という新事業に進出し、現在では同事業を本業の不振をカバーする収益の柱に育てつつある。

危機的な売上激減に直面し新事業展開を検討した垣本昌孝社長は、「新たに設備投資をせず、すでに保有している最新鋭のレーザー加工工作機械と鍛え上げた職人の腕を活かすには、微細な工芸品の製作が適している」と判断し、2009年初めに金属工芸品分野へ取り組むよう社員に指示した。



左から垣本麻希さん・垣本昌孝社長・垣本雅之さん（左）
行燈以外の人気商品「ふりとらくん」（右上）と「ゆれうさぎ」（右下）

この新事業の先頭に立ったのが、垣本社長の長男の雅之さん（同社金属工芸部部長）と長女の麻希さん（同部リーダー）。姉の麻希さんが主にデザインや広報を担当し、弟の雅之さんがネーミングや商品戦略を担当するなど、姉弟で助け合って新事業のプロデュースの一切を手がけた。

売上激減の苦境にあっても約20人の社員を解雇することはせず、製品デザインや宣伝用スチルの撮影から、これまでノウハウのなかった塗料や焼付加工技術の習得にいたるまで、全社員が一丸となり自らの潜在能力を発揮して課題を克服し、社外の力を頼ることなく商品開発を実現したという。

現在の主力商品は、奈良の風情ある情景や正倉院御物の文様などをアレンジした柄の行燈。材料の金属をレーザーで高精度に切り出して模様を作り、ワーロン紙（強化和紙）を張って仕上げる。麻希さんをはじめとするデザインチームのセンス

によって、見慣れた景色や物が美しい切り絵のように抽象化され、LEDライトの灯りが内部で揺らめく様子が幻想的で美しい。

『華倭里（かわり）』というブランド名で商品をラインナップしており、価格は2万円台が中心。奈良柄以外にもウエディング用、メモリアル用、贈り物用などの絵柄も多数用意され、オリジナルデザイン行燈の製作にも個別に対応している。



様々な色・デザインを展開（右）
繊細なデザインを熟練職人の微細加工で仕上げた「華倭里行燈」（左）

現在の主な販路はそごう神戸店、西武八尾店、山陽百貨店等の百貨店で、外商サロンに陳列されるなど高級感への評価が高い。職人手づくりというこだわりのプレミアム感も評判を呼び、有名旅館やホテルからも展示や購入の引き合いがあるという。

主力事業である金属加工の売り上げは、今もリーマンショック前の7割程度にしか回復していないが、この金属工芸品事業は会社全体の売り上げの15%を占めるに至っており、将来的には50%程度にまで引き上げることが目標だと垣本社長は語る。

さらなる売り上げ増を目指し、「商品を常設展示できる趣ある直営店の確保に今後取り組んでいきたい」と、麻希さん・雅之さん姉弟の夢は広がっている。

社員が一丸となり知恵や工夫を集めれば、新たに投資をせずともすでに保有している技術や設備の応用で活路を開くことが十分可能であることを示した同社の取り組みに、学ぶべき点は多い。

（吉村 謙一）



株式会社 カキモト

〒636-0821 奈良県生駒郡三郷町立野北2-19-8
TEL：0745-72-2240 FAX：0745-72-2275
URL：http://www.kakimoto-net.co.jp